Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-09

神戸大学附属図書館「震災文庫」の取り組み

田原, 勝典
岡風呂, 賢

(Citation)
災害と資料,2:1-13

(Issue Date)
2008-03-10

(Resource Type)
conference paper

(Version)
Accepted Manuscript

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90000507

KOBE UNIVERSITY

神戸大学附属図書館「震災文庫」の取り組み

田原勝典
（神戸大学附属図書館情報サービス課電子図書館係長）
岡風呂 賢
（神戸大学附属図書館情報管理課医学情報管理係長）

1 震災文庫のこれまで

1995(平成７)年 1 月 17 日に発生した阪神・淡路大震災の 3 か月後、神戸大学附属図書館は、災害復興と今後の地震研究や防災対策に役立つことを願い、この震災により発生した資料を網羅的に収集する方針を決定した。

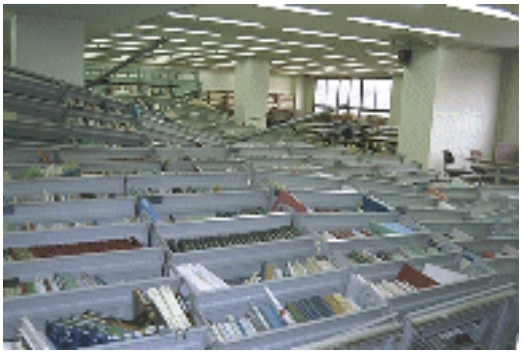
立ち上がりの準備期間には、新聞社への情報提供、「阪神大震災地元 NGO 救援連絡会議」との連携、神戸市役所等への視察と協力依頼の訪問など、資料収集のための広報活動とネットワーク作りを行った。

同年 10 月 30 日に、1034 件の資料とともに当時の雑誌閲覧室の一角で一般公開を開始した。同時に「震災文庫ホームページ」も開設し、所蔵資料の情報を公開するとともに、広く震災資料の寄贈を呼びかけた。

1999(平成 11)年 7 月、電子図書館システム導入により、資料情報と画像・映像を含む本文情報の提供を本格化した。

2004(平成 16)年 10 月、新設された綜合研究棟内の独立した部屋に移転した。同年 11 月には神戸大学阪神・淡路大震災十周年事業の一環として、「資料でたどる阪神・淡路大震災の記録と記憶」と題した展示会・記念講演会を開催した。

震災文庫はその立ち上がり当初より、



震災直後の国際・教養系図書室開架閲覧室。複式書架が将棋倒しとなった。



雑誌閲覧室の一角に設けられた旧震災文庫コーナー。公開当初は一般利用者の方でいっぱいだった。

・資料の網羅的収集
・広く一般に公開
・インターネットの最大限の利用
を方針としている。



現在の震災文庫入り口。


現在の震災文庫室内の様子。両面書架 7 本と閲覧席、AV ブース 1 席などが配置される。震災文庫のある綜合研究棟は図書館棟に隣接し通路でつながっている。

2 資料の分類と整理

2－1 資料の分類

分類は、一般の方に利用しやすいものにするという主旨から、図書館で使用する日本十進分類法（NDC）を使用せず、独自に 16 の主題に分けた「震災文庫」分類を作成した。当初 10 分類の案が出たが、書架上で資料が 1 か所に固まり利用しづらいことから 16 の分類となった。同一形態の資料を形態ごとに配置するために、それらを区分する記号を設け併用する方法を取っている。

【震災文庫 分類表】
1 地震災害一般
2 法律
3 経済
4 行政
5 消防・防災
6 市民生活
7 社会福祉
8 教育
9 地震と地震動
10 医療
11 土木・建築
12 産業・物流
13 交通・港湾
14 情報・通信
15 芸術・文化財
16 文芸

【震災文庫 形態等区分表】

無記号	図書扱いのもの
z	雑誌扱いのもの
s	一枚もの資料
v	抜刷・レジュメ等
n	NGO 寄託資料

例）土木・建築の一枚もの資料で 154 番目の受入資料は、

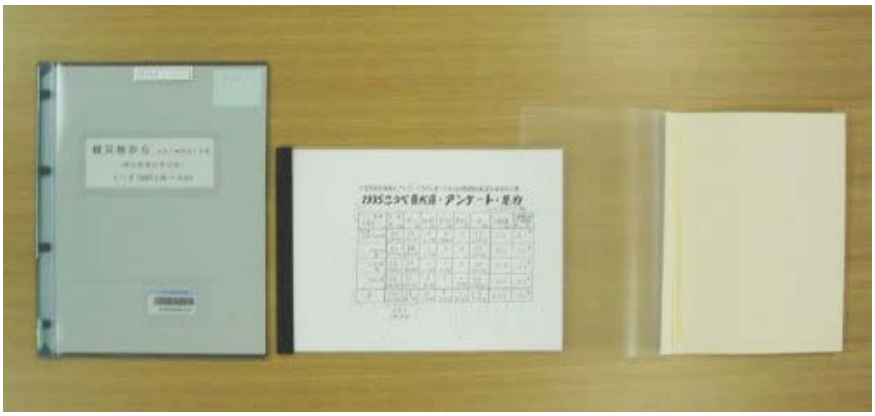
震災文庫
１１
s154


震災文庫書架。分類順、形態順に資料が並ぶ。一枚もの資料は別置されている。

2－2 資料の整理

資料には、図書、パンフレット、雑誌の論文、新聞の連載記事の切抜きなど、様々な形態、大きさのものがある。例えば、一枚もの資料は B5 版から A1 版までの大きさが存在する。これらの資料

を、利用してもらいつつ劣化や紛失を防ぐ「公開と両立した保存」を意識しながら資料整理を行う。具体的には、カードケースやファイルなどそれぞれの資料に適した収納用品を使用して、1 点 1 点整理をする。簡易製本台紙を使用することも多い。



資料に適した収納用ファイル。左のファイルは組み立て式ポケット型で、新聞記事の切り抜きを収納。中のファイルはホッチキス綴じができる。右は簡易製本用の台紙で綴じ部分に接着剤が付いている。

3 資料の収集

3－1 図書の収集

当初は、出版情報誌や大手取次店に提供してもらった情報をもとに購入を行った。現在はインターネット上で刊行情報を調査し、年間 50 万円の予算で図書資料を購入している。

3－2 ボランティア関連資料の収集

主に救援ボランティア活動の中で作成され配布された資料をボランティア関連資料と呼んでおり、これらの収集が一番困難であった。その要因としては、発行者や作成者の連絡先が不明である場合が多い点、保存される性質のものではない点、一部地域のみでの配布である点、が挙げられる。活動関係者からの寄贈を多くいただいた。収集には、人的ネットワークが威力を発揮する資料である。



震災 1 か月後に関西学院大学のボランティア団体が活動方針を周知したチラシ。

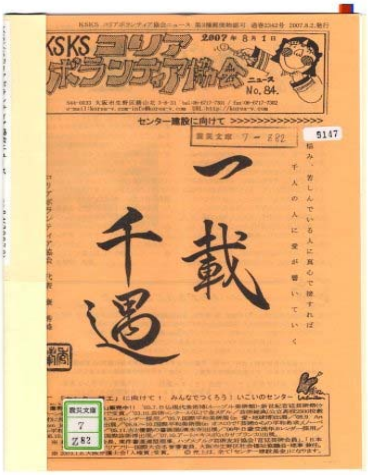
震災-7-s122

3－3 ミニコミ誌の収集

新聞の震災関連記事から、発行団体の活動や発行誌の情報を見つけることが多い。連絡をして、寄贈のお願いをする。震災後 10 年を経過して少なくなったとはいえ、震災関係の記事が掲載されることは多い。一度寄贈してくれると、発行の度に送付してくれることもある。そのような発行者には、寄贈の継続をお願いする意味もこめて、節目節目にこちらの近況などをお知らせしている。

３－４ 行政資料

これも新聞の震災関連記事から情報を得ることが多い。役所や行政団体に寄贈のお願いをする場合、該当部署がどこであるかを事前に調査してそこにお願いすることが入手率を上げる。担当者と電話で直接話ができると、関連資料の入手につながることが多い。



現在も収集継続中のミニコミ誌。震災復興支援食事会や生活支援ボランティア募集の記事が今も載っている。

震災文庫-7-z82

３－５ 一枚もの資料・パンフレット

探して見つけるというよりは目に付いた時に収集する性質のものであることから、収集には個人レベルの協力者が威力を発揮する。図書館職員により収集された資料も多い。日ごろから周囲に協力を呼びかけることが大切である。



協力者により収集された医療フォーラムのパンフレット。

震災-10-s249

４ 震災文庫の利用

震災文庫の開館時間は平日の 11 時から 17 時であり、現在は平均すると１日２人前後の利用がある。学外の方の利用も多く、数年前までは見学を目的にする利用が多かったが、最近は利用したい資料を震災文庫 Web 版で事前に探して計画的に資料を閲覧する利用者が目立つようになった。学内利用者の大半は学生や大学院生であり、震災に関連する研究やゼミでの発表のための利用が多い。

震災文庫の資料は、当初から貸し出しは行わず室内での閲覧のみの利用としている。これは、学内のみならず各地から来られる利用者の方々のために貸し出しによる資料の不在を避けるためである。

その代わりに、資料の複写は図書館内の複写機を使い、著作権の範囲内で行えるようにしている。

現物の利用の他に、震災文庫 Web 版で公開している写真資料などの２次使用の問合せもある。写真資料については、著作権は撮影者にあり図書館が使用許可を仲介している。使用許可を図書館に任せていただいている撮影者もいれば、営利目的は有料、制作物を寄贈すること、などの使用条件を付けている撮影者もいる。また、現在連絡が付かず、使用許可の出せない撮影者もいる。

2 次使用は、基本的に営利目的以外の教育・研究の目的に限定し、撮影者の明記と出典として震災文庫の明記を条件にしている。

昨年は、自治体の防災研修の資料での使用など 30 件程度の依頼があった。

５ 電子図書館システムでの公開

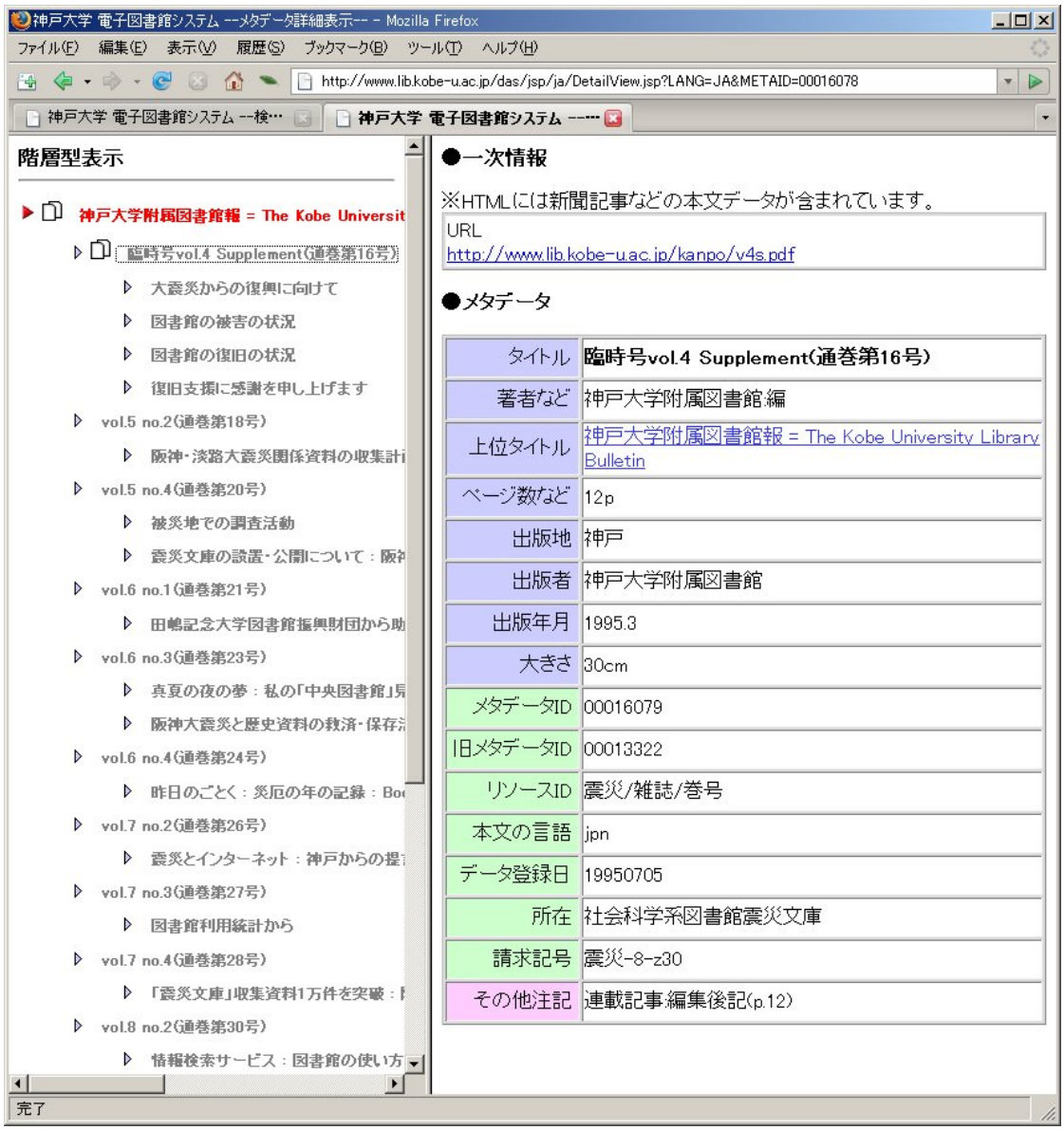
震災文庫の Web 版は、電子図書館システムの導入とともに大きく進展した。

その１つは、資料情報の階層的な登録機能である。利用者の方々に探している内容の資料にたどり着いてもらうことを考え、１つの資料中の情報を例えばタイトルだけではなくその下の章・節などの情報まで階層的に制限なく登録できる仕組みにした。これにより、震災の何々について調べる、という内容の具体に迫った検索が可能になった。

もう１つは、様々なデジタル化（本体）データの提供である。ストリーミングサーバも含めたシステムを構築し、パンフレットの画像、行政資料冊子の PDF 版、震災復興期の電車内アナウンスの録音、震災当日の様子を撮影したビデオ映像といった様々なメディアの安定した公開が可能となっている。写真資料では、地図上をクリックして画像を表示する「地図からの検索」も公開している。

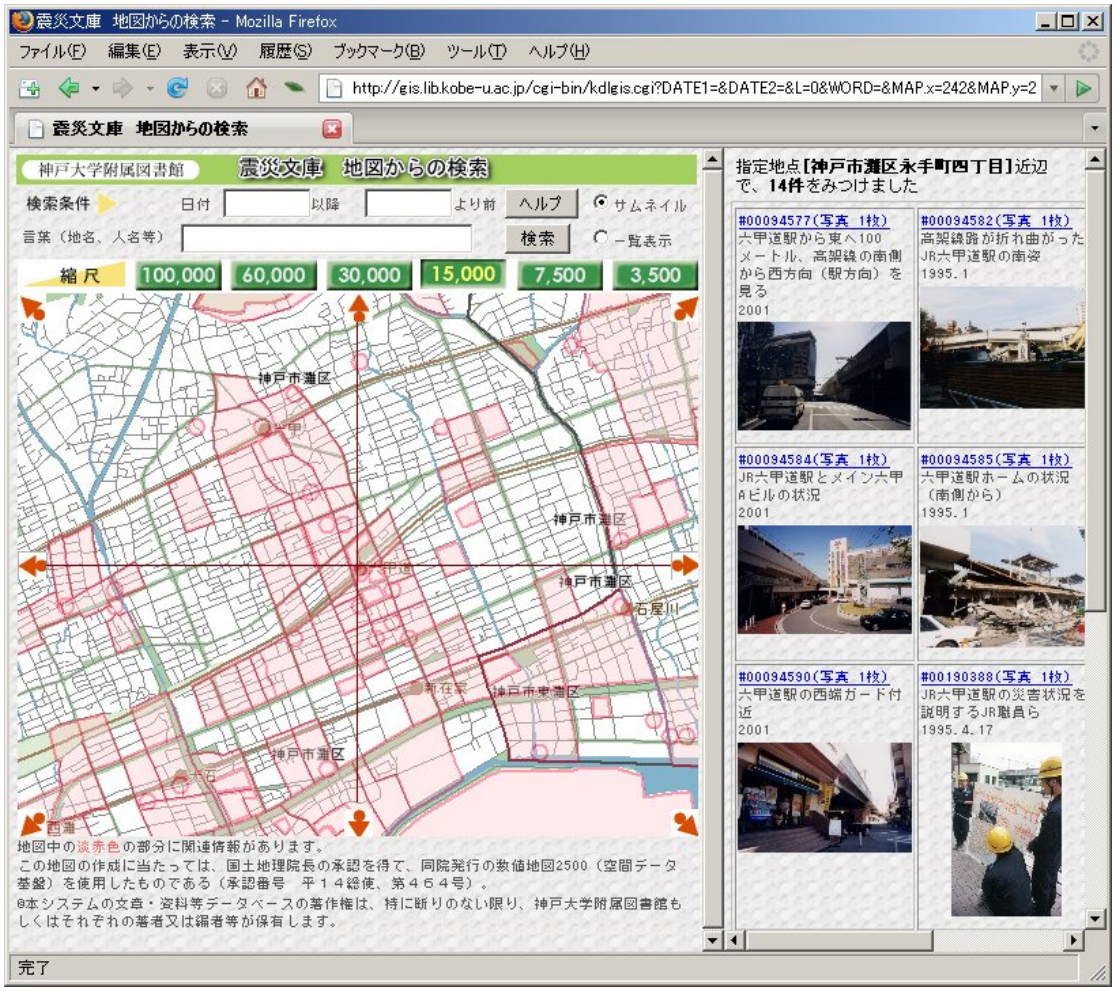
2008（平成 20）年 2 月には電子図書館システムのリプレイスが予定されており、検索速度の向上や「地図からの検索」の Google マップへの移行、xml 形式でのデータ流通など、より利用しやすいシステムへの検討が行われている。

【検索結果詳細表示画面】



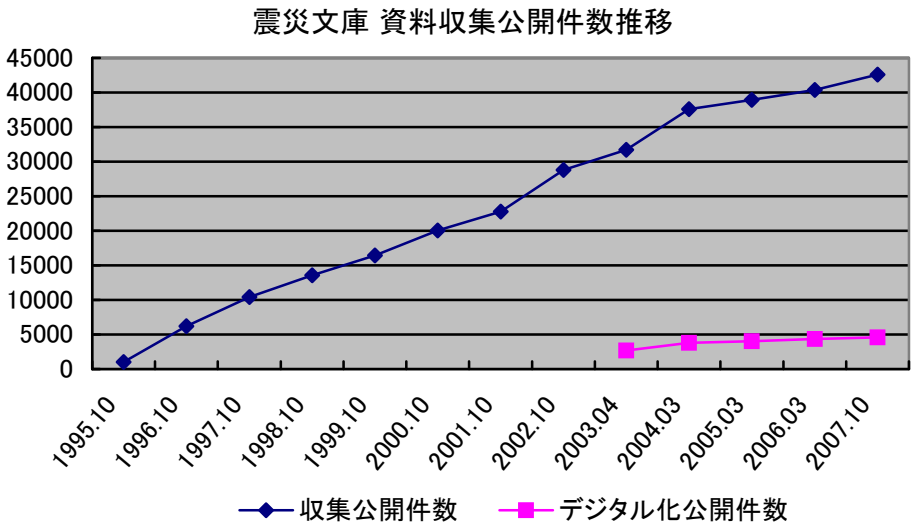
左フレームに資料情報が階層的に表示される。「神戸大学附属図書館報」という親書誌の下位に「各巻号」が、その下位に震災関連の「記事タイトル」が表示されている。本文ファイルを表示可能な場合は情報の左にファイルアイコンが表示される。右フレームには、各データの詳細情報と、本文ファイルへのリンクが表示される。

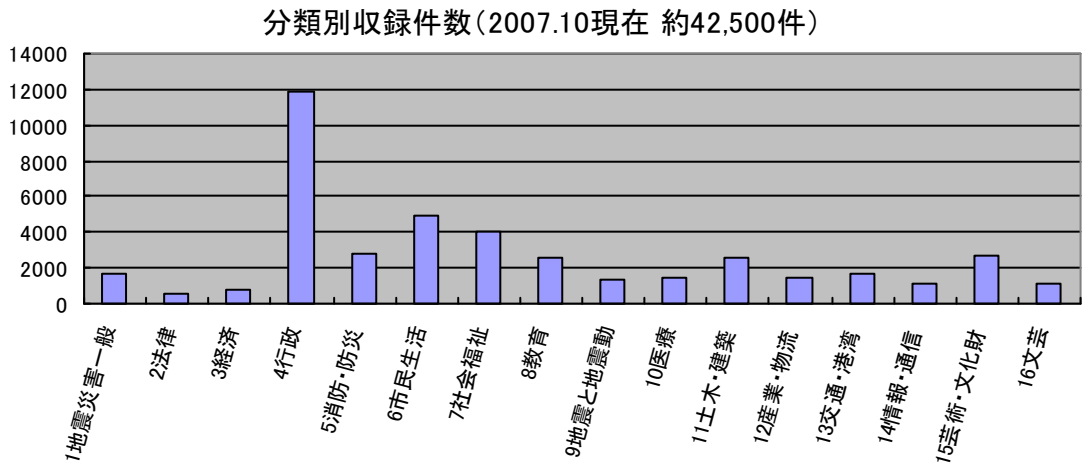
【地図からの検索】

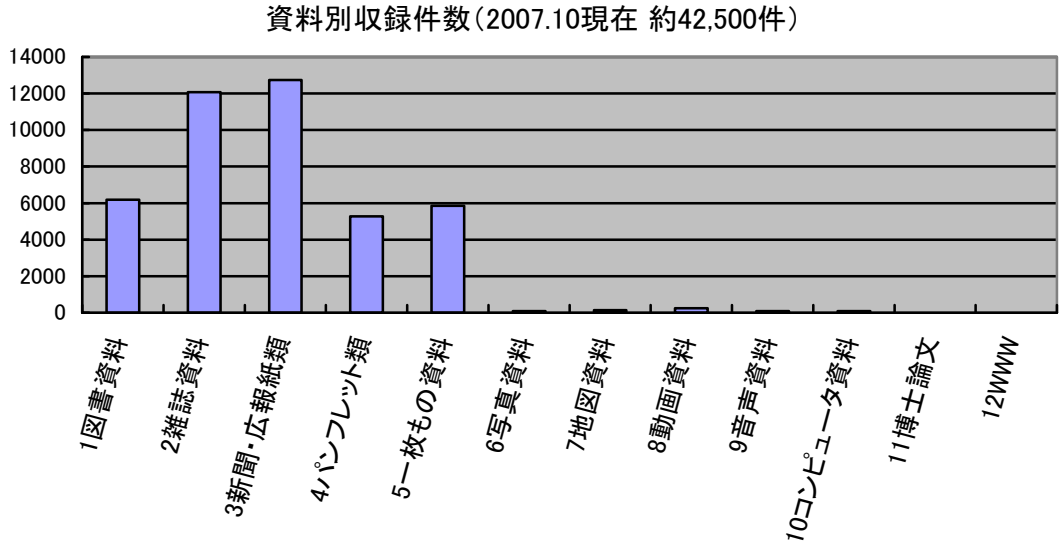


地図上の〇印をクリックすると、該当地点の写真資料一覧が表示される。地名などのことばでの検索も可能。7,000 件を越える写真が収録されている。次期システムでは Google マップへの移行が予定されている。

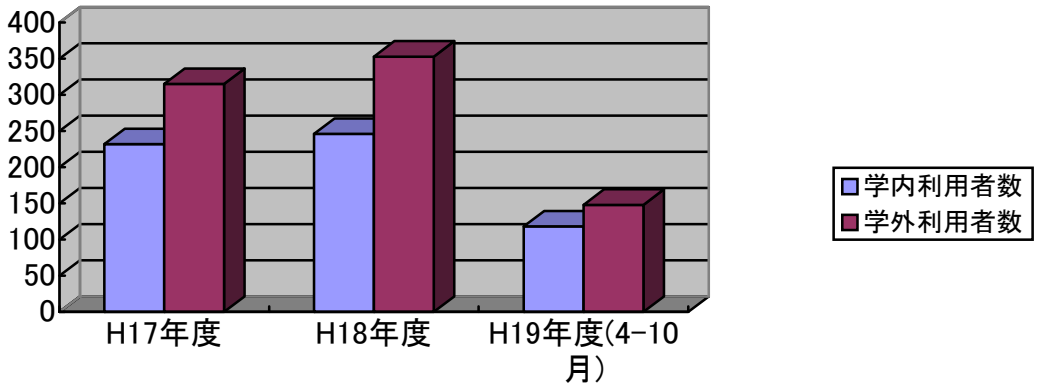
6　各種統計


震災文庫 資料収集公開件数推移
45000
40000
35000
30000
25000
20000
15000
10000
5000
0
1995.10
1996.10
1997.10
1998.10
1999.10
2000.10
2001.10
2002.10
2003.04
2004.03
2005.03
2006.03
2007.10
収集公開件数
デジタル化公開件数

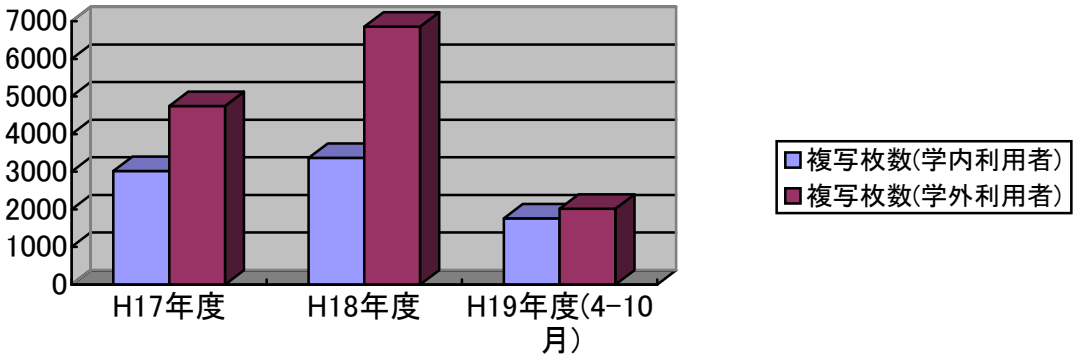

分類別収録件数（2007.10現在 約42,500件）
14000
12000
10000
8000
6000
4000
2000
0
1地震災害一般
2法律
3経済
4行政
5消防・防災
6市民生活
7社会福祉
8教育
9地震と地震動
10医療
11土木・建築
12産業・物流
13交通・港湾
14情報・通信
15芸術・文化財
16文芸


資料別収録件数（2007.10現在 約42,500件）
14000
12000
10000
8000
6000
4000
2000
0
1図書資料
2雑誌資料
3新聞・広報紙類
4パンフレット類
5一枚もの資料
6写真資料
7地図資料
8動画資料
9音声資料
10コンピュータ資料
11博士論文
12WWW

利用者数推移



複写枚数推移



ホームページアクセス数推移

